

## 論文

# 小・中学校における健康管理に関する特別な配慮についての養護教諭の問題認識 ー新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大直前に実施したアンケート調査の結果よりー

永 吉 雅 人\*・大 庭 重 治\*\*

上越市内の全小・中学校の養護教諭を対象として、健康管理に関する特別な配慮についての問題認識の状況と重要視している配慮内容、関心が高い配慮内容等についてアンケート調査を実施した。その主な結果は次の通りである。1) 特別な配慮に関連して、「医療機関との連携」及び「ケース会議」が不足していると考えている。2) 現在最も重要視している配慮内容として、小・中学校ともに「アレルギー」が多く、次いで、小学校では「職員間の共通理解」、中学校では「心のケア」が多い。3) 最も関心のある配慮内容として、小学校では「心のケア」と「アレルギー」、中学校では「心のケア」が多い。4) 若手の養護教諭では、配慮の決定において重要な役割を果たせていない、学級担任との共通理解が図られていないと感じている割合が高い。なお、本調査はCOVID-19感染拡大直前に実施しており、COVID-19感染拡大以前の記録としての価値が見込まれる。

キー・ワード：健康管理、特別な配慮、養護教諭、小・中学校、問題認識

## I. 問題と目的

小・中学校の学級には、特有の身体特性のある子ども（肢体不自由児、弱視児等）、アレルギー疾患のある子ども（気管支喘息、食物アレルギー、動物アレルギー、科学物質アレルギー、アナフィラキシー等）、服薬に伴う副作用（眠気、食欲不振等）に対する配慮が必要な子ども（病弱児、発達障害児等）、心のケアが必要な子ども（うつ病、不安障害等）など、「健康管理に特別な配慮・支援を必要としている子ども」が数多く在籍している。近年、小・中学校等では、このような子どもたちの心身の特性と学校生活に必要な様々な支援に関するニーズを把握し、適切な合理的配慮を提供できるように体制を整えている。

そのような合理的配慮を実施していく際には、教育的な視点とともに医療・看護に関する視点を持った支援者が必要であり、各学校に配置されている養護教諭がその中心的役割を果たしている。

泊（2018）は、学校における熟練養護教諭の主な実践内容を抽出し、①曖昧な情報を確かな情報にすること、②関係者との連携の機会をとらえて活かすこと、③保護者との良好な関係を構築すること、④起こりうる問題を予測して、その回避策を講じること、⑤医療につなげるための連携を図ること、の5つのカテゴリーに整理している。また、養護教諭の重要な役割のひとつとして、地域における連携についても指摘されている。たとえば、永野・小元・河田・寺岡・青木・宮脇・工藤・服部・稲富（2008）は、看護系大学と小・中学校の養護教諭の具体的な連携の可能性を検討するために、2006年における養護教諭のもつ児童・生徒の健康管理上の問題について報告している。また、勢井・中津・横田・津田・石本・棟方・中堀（2009）は、健康管理に関する多機関連携の取り組みとして、小・中学校、

医師会、行政、大学等との連携による小児の生活習慣病予防活動について報告している。しかしながら、従来の研究では、小数の養護教諭の実践内容や連携の取組などの紹介に留まり、これからの学校における健康管理や健康管理に関する特別な配慮についての示唆は十分に得られていない。

そこで、本研究では、通常の学級に在籍する健康管理に特別な配慮を必要とする子どもたちへの支援の充実を図るための基礎資料を収集することを目的として、一地方都市に勤務する小学校及び中学校の養護教諭を対象とした悉皆調査を実施し、養護教諭における問題認識の状況と重要視している配慮内容、関心が高い配慮内容等について整理した。なお、本調査はCOVID-19感染拡大直前に実施したため、調査結果はCOVID-19感染拡大以降の健康管理に関する特別な配慮の在り方を検討する際の比較資料としての価値が見込まれる。

分析においては、以下の理由から、養護教諭の年齢層による差異と、支援対象の年齢段階、すなわち小学校と中学校における差異に注目した。

藤井・中村（2018）は、養護教諭が個人援助に関する行動能力を発揮することができると組織の運営や支援のネットワーク作りがすすみ、それに伴って子どもたちの健康に関する記録の管理ができるようになるため、健康相談活動等において子どもたちの効果的なアセスメントが可能になることを指摘した。すなわち、子どもたちの健康管理に関する特別なニーズを把握し合理的配慮を提供していく際には、保護者や担任の考え方を理解し、相互に情報交換を行うなどの行動能力が養護教諭には求められると指摘した。しかしながら、養護教諭に求められるこのような能力は、職務を積み重ね一定の発言力を得ることによって可能となるといえる。若い教師と経験豊富な教師の間には差があり、それが健康管理に関する支援の考え方に影響することが予想される。そこで、本研究においては、教師の年齢層による差異について検討することとした。

また、富家・宮前（2009）は、小学校と中学校の教師を対象

\* 新潟県立看護大学

\*\* 上越教育大学

として中1ギャップの背景に対する考え方を調査し、教師の子どもに対する接し方、学習環境のとらえ方、小中教師間の連携のあり方等に関連して、小学校の教師と中学校の教師の間での多岐にわたる認識の違いを見出し、それらが小中の連携を阻害しているのではないかと考えた。このように、小学校と中学校の間には大きな環境の変化があることが身近にいる教師によって指摘されており、そのことは子どもたちの健康管理に対する考え方や実際の対応にも反映されている可能性が高い。そこで、本研究では、小学校と中学校の養護教諭にみられる問題認識の差異についても検討することとした。

## Ⅱ. 方法

### 1. 調査対象

新潟県上越市（平成31年1月1日現在の人口は193,275人）の附属小学校を含む全小学校51校及び中等教育学校を含む全中学校24校の養護教諭と養護教諭が配置されていない場合には養護教諭の業務を担当している先生を対象とした。

### 2. 調査時期

令和元年10月31日から11月30日までの1か月の間に実施した。

### 3. 調査内容

養護教諭等からみた通常の学級に在籍する「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもたち」への支援状況等についてアンケート調査を実施した。具体的な調査項目は別紙の通りである。

### 4. 調査実施手続き

上越市の小学校長会及び中学校長会に対して、調査の趣旨等の説明をした上で実施について承諾を得た後、調査対象校の校長を通してアンケート調査を依頼した。調査用紙は郵送により配付し、郵送により回収した。

### 5. 分析方法

データ化されたアンケート情報を用いて、単純集計した。自由記述となる3項目については、記述された意味内容によって分類し、その内容を示すカテゴリー名を付与した。次に、Microsoft Excel 2019を用いて健康管理に関する特別な配慮についての問題認識を問う12項目と、年齢及び小・中学校との関連性について、有意水準5%としてノンパラメトリックな統計学的検定であるマン・ホイットニーのU検定により分析した。

### 6. 倫理的配慮

調査に先立ち国立大学法人上越教育大学研究倫理審査委員会による研究倫理審査を受け、研究計画に関する承認を得た（承認番号：2019-60）。

## Ⅲ. 結果

### 1. 回答者の属性

調査用紙は、小学校51校、中学校24校に配布し、それぞれ41校、21校より回答が得られ（小学校回収率80.4%、中学校回収率87.5%）、全数を有効回答とした。回答者の年齢、教職経験年数、現在の業務、所有している教員免許状について小・中学校別に表1に示す。なお、業務におけるその他の内訳としては、小学校では、給食6名、清掃2名、厚生1名、安全1名、PTA1名、中学校では、給食3名、教頭1名であった。

表1より、回答者について、特に以下のことが確認できる。

- 1) 年齢は、20歳代または50歳代以降の割合が高く、中間層の割合が低い。
- 2) 教職経験年数は、5年未満または25年以上の割合が高く、5年～25年の割合が低い。

### 2. 特別な配慮に関する問題認識

健康管理に関する特別な配慮についての問題認識を問う12項目の回答状況を図1に示す。

図1より、特別な配慮に関する問題認識について、特に以下のことが確認できる。

- 1) 「医療機関との連携」が不足していると認識している。
- 2) 「ケース会議」が不足していると認識している。

### 3. 現任校において最も重要視している配慮内容

健康管理に関する特別な配慮に関連して、現任校において現在最も重要視している配慮の内容について小学校38校、中学校20校より回答が得られ、その回答状況を小・中学校別に表2に示す。なお、その他の疾患としては、小学校では「てんかん」「ぜんそく」「疾患を抱える児童」「健康配慮必要児童」、中学校では「糖尿病」「心臓病」「過敏性腸症候群」「発作時の対応」の記載があった。

表2より、最も重要視している配慮内容について、以下のことが確認できる。

- 1) 小学校、中学校ともに「アレルギー」の指摘人数が最も多い。
- 2) 次に、小学校では「職員間の共通理解」、中学校では「心のケア」の指摘人数が多い。

表1 回答者の属性

		小学校		中学校	
		人数(名)	割合(%)	人数(名)	割合(%)
年齢	20～29歳	11	( 26.8 )	6	( 28.6 )
	30～39歳	7	( 17.1 )	1	( 4.8 )
	40～49歳	8	( 19.5 )	4	( 19.0 )
	50歳～	15	( 36.6 )	10	( 47.6 )
教職経験年数	0年～5年	12	( 29.3 )	4	( 19.0 )
	5年～10年	3	( 7.3 )	2	( 9.5 )
	10年～15年	3	( 7.3 )	1	( 4.8 )
	15年～20年	3	( 7.3 )	1	( 4.8 )
	20年～25年	3	( 7.3 )	1	( 4.8 )
	25年～30年	6	( 14.6 )	3	( 14.3 )
	30年～	11	( 26.8 )	9	( 42.9 )
現在の業務 (複数回答あり)	養護教諭	41	( 100 )	20	( 95.2 )
	保健主事	29	( 70.7 )	18	( 85.7 )
	授業担当	8	( 19.5 )	4	( 19.0 )
	特支コ	0	( 0.0 )	0	( 0.0 )
	その他	7	( 17.1 )	4	( 19.0 )
所有している 教員免許	養護教諭	41	( 100 )	20	( 95.2 )
	栄養教諭	0	( 0.0 )	0	( 0.0 )
	幼稚園	4	( 9.8 )	0	( 0.0 )
	小学校	2	( 4.9 )	1	( 4.8 )
	中学校	11	( 26.8 )	6	( 28.6 )
	高等学校	7	( 17.1 )	3	( 14.3 )
	特別支援学校	0	( 0.0 )	0	( 0.0 )

※経験年数におけるX年～Y年はX年以上Y年未満を示す。

※業務における特支コは特別支援教育コーディネーターを示す。

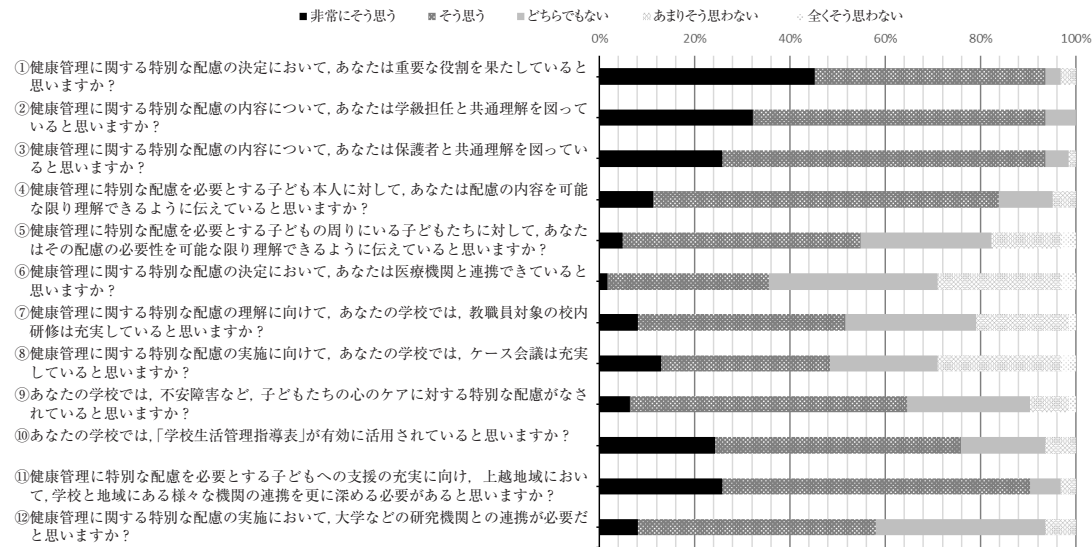


図1 特別な配慮に関する問題認識を問う12項目の回答状況

表2 現任校において最も重要視している配慮内容

重要視している配慮内容	指摘人数	
	小学校 (n=38)	中学校 (n=20)
アレルギー	21	7
その他疾患	5	4
職員間の共通理解	8	
緊急対応	4	4
発達障害	3	3
心のケア	1	5
保護者との連携	3	1
特別な教育的ニーズ	3	1
環境の安全性	2	2
熱性けいれん	2	
日々の生活における気づき	2	
感染性胃腸炎	1	
管理職への報告	1	
個に応じた対応	1	
支障を最小限にすること	1	
理解すること		1
運動制限		1
人権		1

4. 研究機関より提供してほしい情報

健康管理に関する特別な配慮に関連して、大学などの研究機関より提供してほしい情報について小学校25校、中学校15校より回答が得られ、その回答状況を小・中学校別に表3に示す。

表3より、大学等の研究機関より提供してほしい情報について、以下のことが確認できる。

- 1) 小学校、中学校ともに関連する「専門機関情報」を指摘する人数が多い。
- 2) 小学校では「最新研究成果」を指摘する人数も多い。

表3 研究機関より提供してほしい情報

提供を希望する情報	指摘人数	
	小学校 (n=25)	中学校 (n=15)
心のケア	2	7
専門機関情報	4	3
最新研究成果	4	2
研修情報	3	1
家庭や親子	3	
アレルギー	2	1
事例情報	1	2
特別な教育的ニーズ	2	
発達障害	2	
その他疾患	2	
学校での配慮事項	2	
配慮、支援方法		2
肥満	1	
成長曲線	1	
保護者との連携	1	
具体的アドバイス	1	
健康教育に関する学生の学習状況	1	
保健指導の進め方		1
生活習慣		1
他の地区の状況		1
分かりやすい情報		1

3) 中学校では「心のケア」の指摘人数が最も多い。

5. 最も関心のある配慮内容

健康管理に関する特別な配慮に関連して、現在最も関心のある配慮の内容について小学校29校、中学校19校より回答が得られ、その回答状況を小・中学校別に表4に示す。

表4より、現在最も関心のある配慮の内容について、以下のことが確認できる。

- 1) 小学校、中学校ともに「心のケア」の指摘人数が多い。
- 2) 小学校では「アレルギー」も多い。

表4 最も関心のある配慮内容

関心のある配慮内容	指摘人数	
	小学校 (n=29)	中学校 (n=19)
心のケア	7	12
アレルギー	7	1
関係者の連携	4	1
特別な教育的ニーズ	4	
発達障害	3	1
その他疾患	3	
性的多様性	2	1
家庭や親子	2	
個別の対応	1	1
摂食障害	1	
虐待	1	
保健指導	1	
依存症	1	
難聴児	1	
緘黙	1	
排泄自立	1	
ワクチン接種	1	
運動器検診	1	
継続的支援	1	
管理職の理解		1
医療情報		1
プライバシー		1
養護教諭の配置		1

#### IV. 考察

##### 1. 特別な配慮に関する年齢層による問題認識の違い

健康管理に関する特別な配慮について問題認識を問う12項目に関して、年齢において特に割合が高かった20歳代と50歳代以降の回答を抽出し、中央値、最頻値及び検定結果として $p$ 値を表5に示す。

表5より、特別な配慮に関する問題認識について、以下のことが考えられる。

- 1) 「重要な役割を果たしているか」について有意差が認められ、20歳代のほうがそう思わない割合が高かった。このことから、年齢が上がり教職経験を積むと、特別な配慮の決定において自分が重要な役割を果たしているという認識を持てるようになると考えられる。
- 2) 「学級担任と共通理解を図っているか」について有意差が認められ、20歳代のほうがそう思わない割合が高かった。このことから、年齢が上がり教職経験を積むと、学級担任との共通理解が図られているという認識を持てるようになると考えられる。

「最も関心のある配慮内容」に関する自由記述では、心のケアやアレルギーに関する指摘が多かった。また、「重要視している内容」においてもアレルギーやその他の疾患が指摘されており、さらには職員間の共通理解も重視されていた。すなわち、養護教諭が子どもたちの心のケアやアレルギーなどの問題に対処する際には、子ども自身の問題だけではなく、子どもを取り巻く他者との連携が必要であり、そのことの重要性が認識

されていた。

鈴木（2019）による養護教諭のコーディネーション行動に関する研究のレビューにおいても、「心の健康」「特別支援教育における医療ケア」「子どもへの対応と連携」「コーディネーターの役割と機能」の4つのカテゴリに関する内容に研究の目が向けられていることが示されており、健康管理の諸問題は養護教諭と関係者との連携問題と関連づけて取り上げられていることが明らかとなっている。このような養護教諭のコーディネーターとしての役割は、たとえば坂本・石原（2018）による慢性疾患への対応、小貫・庄司（2019）によるメンタルヘルスへの対応、岡本・津島（2019）による特別支援教育への対応など、近年多くの研究において指摘されており、今後もその重要性は一層高まるものと考えられる。なお、特別支援学校に勤務する養護教諭の場合には、教職経験年数とともに、特別支援学校での勤務年数がコーディネーション行動に影響を与えることが岡本・津島（2019）の研究において指摘されており、計画的な教員配置が必要となる。

しかしながら、文部科学省（2020）の報告によると、小・中学校の教員の年齢構成は現在30歳と60歳付近にふたつのピークがあるため、今後は50歳以上の比率が低下し、30歳未満の比率が上昇するとの指摘があり、コーディネーターとしての力を十分に備えていない養護教諭の割合が高くなる可能性がある。藤井・中村（2018）が指摘したように、養護教諭のコミュニケーション力が子どもたちの健康管理に関する特別な配慮を支えているとすれば、若手の養護教諭が学校内において十分なコミュニケーション力を発揮できるような環境を醸成していく必要がある。

##### 2. 特別な配慮に関する小学校と中学校による問題認識の違い

健康管理に関する特別な配慮について問題認識を問う12項目に関して、小学校と中学校毎に中央値、最頻値及び検定結果として $p$ 値を表6に示す。

表6より、特別な配慮に関する問題認識については、12項目の回答状況に有意差が認められなかったことから、特別な配慮に関する問題認識は小学校と中学校の養護教諭間では顕著な違いはないものと考えられる。

ただし、富家・宮前（2009）の研究は、小学校の教師からみると、中学校には教科担任制の弊害があり、小学校に比べると教師と子どもが密に接触する機会が少ない傾向にあることを指摘している。このため、中学校では、通常の学級に在籍する個々の子どもの健康管理に関する特別な配慮に関して、学級担任が的確にそのニーズを把握できない可能性がある。そのような状況を回避するためにも、特に若手の養護教諭と学級担任の十分な連携構築が期待される。

##### 3. 今後の課題

本調査結果から、健康管理について特別な配慮を必要とする子どもたちのさらなる支援の充実に必要な課題として、以下のことが考えられる。

- 1) 図1より、特別な配慮に関する問題認識について、「医療機関との連携」及び「ケース会議」が不足していると認識されている。このことから、学校と医療機関との連携形態と連携の推進策の検討、またケース会議の実際の実施状況の把握とその推進策の検討が必要である。

表5 20歳代と50歳代以降における問題認識の比較

質問事項	20歳代		50歳代以降		p-value
	中央値	最頻値	中央値	最頻値	
①健康管理に関する特別な配慮の決定において、あなたは重要な役割を果たしていると思いますか？	4	4	5	5	0.040*
②健康管理に関する特別な配慮の内容について、あなたは学級担任と共通理解を図っていると思いますか？	4	4	5	5	0.031*
③健康管理に関する特別な配慮の内容について、あなたは保護者と共通理解を図っていると思いますか？	4	4	4	4	0.398
④健康管理に特別な配慮を必要とする子ども本人に対して、あなたは配慮の内容を可能な限り理解できるように伝えていると思いますか？	4	4	4	4	0.608
⑤健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの周りにいる子どもたちに対して、あなたはその配慮の必要性を可能な限り理解できるように伝えていると思いますか？	3	4	4	4	0.626
⑥健康管理に関する特別な配慮の決定において、あなたは医療機関と連携できていると思いますか？	3	3	4	4	0.101
⑦健康管理に関する特別な配慮の理解に向けて、あなたの学校では、教職員対象の校内研修は充実していると思いますか？	3	3	4	4	0.008
⑧健康管理に関する特別な配慮の実施に向けて、あなたの学校では、ケース会議は充実していると思いますか？	4	4	4	4	0.672
⑨あなたの学校では、不安障害など、子どもたちの心のケアに対する特別な配慮がなされていると思いますか？	3	3	4	4	0.077
⑩あなたの学校では、「学校生活管理指導表」が有効に活用されていると思いますか？	4	4	4	4	0.547
⑪健康管理に特別な配慮を必要とする子どもへの支援の充実に向け、上越地域において、学校と地域にある様々な機関の連携を更に深める必要があると思いますか？	4	4	4	4	0.682
⑫健康管理に関する特別な配慮の実施において、大学などの研究機関との連携が必要だと思いますか？	4	4	4	4	0.481

※中央値および最頻値を、1を「全くそう思わない」、2を「あまりそう思わない」、3を「どちらでもない」、4を「そう思う」、5を「非常にそう思う」として数字で示す。

\* $p<0.05$

表6 小学校と中学校における問題認識の比較

質問事項	小学校		中学校		p-value
	中央値	最頻値	中央値	最頻値	
①健康管理に関する特別な配慮の決定において、あなたは重要な役割を果たしていると思いますか？	4	4	4	4	0.917
②健康管理に関する特別な配慮の内容について、あなたは学級担任と共通理解を図っていると思いますか？	4	4	4	4	0.823
③健康管理に関する特別な配慮の内容について、あなたは保護者と共通理解を図っていると思いますか？	4	4	4	4	0.699
④健康管理に特別な配慮を必要とする子ども本人に対して、あなたは配慮の内容を可能な限り理解できるように伝えていると思いますか？	4	4	4	4	0.693
⑤健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの周りにいる子どもたちに対して、あなたはその配慮の必要性を可能な限り理解できるように伝えていると思いますか？	4	4	3	3	0.112
⑥健康管理に関する特別な配慮の決定において、あなたは医療機関と連携できていると思いますか？	3	4	3	3	0.947
⑦健康管理に関する特別な配慮の理解に向けて、あなたの学校では、教職員対象の校内研修は充実していると思いますか？	4	4	3	4	0.513
⑧健康管理に関する特別な配慮の実施に向けて、あなたの学校では、ケース会議は充実していると思いますか？	3	4	4	4	0.624
⑨あなたの学校では、不安障害など、子どもたちの心のケアに対する特別な配慮がなされていると思いますか？	4	4	4	4	0.929
⑩あなたの学校では、「学校生活管理指導表」が有効に活用されていると思いますか？	4	4	4	4	0.078
⑪健康管理に特別な配慮を必要とする子どもへの支援の充実に向け、上越地域において、学校と地域にある様々な機関の連携を更に深める必要があると思いますか？	4	4	4	4	0.964
⑫健康管理に関する特別な配慮の実施において、大学などの研究機関との連携が必要だと思いますか？	4	4	3	3	0.301

※中央値および最頻値を、1を「全くそう思わない」、2を「あまりそう思わない」、3を「どちらでもない」、4を「そう思う」、5を「非常にそう思う」として数字で示す。

2) 表4より、現在最も関心のある配慮の内容について、「心のケア」と「アレルギー」が多かったが、特に「心のケア」に対する小・中学校における関心度の違いの背景について、更なる分析が必要である。

3) 本調査は上越市という限定された地域の養護教諭を対象とした結果であるため、都市の規模や地域資源の状況など、地域特性による教員の認識の違いを検討する必要がある。また、通常の学級に在籍する子どもの健康管理に関する特別な配慮をより深く追究するためには、児童生徒、保護者、学級担任等、養護教諭以外の視点からみた問題認識の状況についても検討する必要がある。

なお、ウィズコロナ時代からポストコロナ時代における「新たな日常」では、学校現場において従来指摘されてきた問題とともに、健康管理に関する複雑な問題が新たに生じていることから、それらの問題への対応も含めた健康管理のあり方を早急に検討していく必要がある。

## 付記

本論文は、令和2年度科学研究費「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築」（研究代表者：大庭重治）による研究を推進するために、令和元年度上越教育大学研究プロジェクト「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための『地域連携コモンズ』形成の試み」（研究代表者：大庭重治）の補助を受けて実施した調査の結果を改めて整理・分析して報告したものである。

## 文献

- 藤井小百合・中村仁志（2018）養護教諭のアセスメント能力の形成に影響を与える要因. 山口県立大学学術情報, 11, 135-146.
- 文部科学省（2020）令和元年度学校教員統計調査（中間報告）. 文部科学省総合教育政策局調査企画課.
- 永野光子・小元まき子・河田幸恵・寺岡三左子・青木博美・宮脇美保子・工藤綾子・服部恵子・稲富恵子（2008）A看護系大学の地域貢献活動に関する研究－小・中学校の養護教諭との連携の可能性－. 医療看護研究, 4(1), 79-82.
- 岡本啓子・津島ひろ江（2011）養護教諭のコーディネーション能力育成の研修プログラムニーズ－全国特別支援学校養護教諭への意識調査から－. 学校保健研究, 53, 250-260.
- 小貫衣澄・庄司一子（2019）子どものメンタルヘルスにおける養護教諭の役割・専門性に関する研究動向：学校保健分野を中心に. 共生教育学研究, 6, 101-112.
- 坂本亜希・石原研治（2018）小児の慢性疾患に対する養護教諭の役割. 茨城大学教育学部紀要（教育科学）, 67, 591-594.
- 勢井雅子・中津忠則・横田一郎・津田芳見・石本寛子・棟方百熊・中堀豊（2009）徳島県における多機関連携による小児の生活習慣病予防活動. 日本公衆衛生雑誌, 56(3), 163-171.
- 鈴木薫（2019）養護教諭のコーディネーション行動に関する研究動向と課題. 子ども学論集, 5, 41-54.
- 泊祐子（2018）健康問題の多様化に伴う養護教諭の役割拡大. 教育と医学, 66(10), 912-922.
- 富家美那子・宮前淳子（2009）教師の視点からみた中1ギャップに関する研究. 香川大学教育実践総合研究, 18, 89-101.

## 別紙

### 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの支援について

小・中学校の通常の学級には、「健康管理に特別な配慮を必要とする子ども」が数多く在籍しています。その中には、アレルギー疾患の子ども（気管支ぜん息、食物アレルギー、アナフィラキシー等）、特別な教育的ニーズのある子ども（病弱児、発達障害児等）、心のケアが必要な子ども（不安障害、うつ病等）などがいます。

近年、学校では、このような子どもたちが学校生活を順調に送ることができるように、様々な特別な配慮（合理的配慮）が提供されています。

このことに関連して、通常の学級に在籍する「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもたち」の支援の充実に資するために、アンケート調査を計画させていただきました。

つきましては、通常の学級に在籍する子どもたちを念頭において、以下の各問いについてご回答をお願いいたします。

① ～ ⑫は、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5つの中から該当する内容を選択。

⑬ ～ ⑮は、自由記述。

- ① 健康管理に関する特別な配慮の決定において、あなたは重要な役割を果たしていると思いますか？
- ② 健康管理に関する特別な配慮の内容について、あなたは学級担任と共通理解を図っていると思いますか？
- ③ 健康管理に関する特別な配慮の内容について、あなたは保護者と共通理解を図っていると思いますか？
- ④ 健康管理に特別な配慮を必要とする子ども本人に対して、あなたは配慮の内容を可能な限り理解できるように伝えていくと思いますか？
- ⑤ 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの周りにいる子どもたちに対して、あなたはその配慮の必要性を可能な限り理解できるように伝えていくと思いますか？
- ⑥ 健康管理に関する特別な配慮の決定において、あなたは医療機関と連携できていると思いますか？
- ⑦ 健康管理に関する特別な配慮の理解に向けて、あなたの学校では、教職員対象の校内研修は充実していると思いますか？
- ⑧ 健康管理に関する特別な配慮の実施に向けて、あなたの学校では、ケース会議は充実していると思いますか？
- ⑨ あなたの学校では、不安障害など、子どもたちの心のケアに対する特別な配慮がなされていると思いますか？
- ⑩ あなたの学校では、「学校生活管理指導表」が有効に活用されていると思いますか？
- ⑪ 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもへの支援の充実に向け、上越地域において、学校と地域にある様々な機関の連携を更に深める必要があると思いますか？
- ⑫ 健康管理に関する特別な配慮の実施において、大学などの研究機関との連携が必要だと思いますか？
- ⑬ 健康管理に関する特別な配慮に関連して、現任校において現在最も重要視している配慮の内容は何ですか？
- ⑭ 健康管理に関する特別な配慮に関連して、大学などの研究機関より提供してほしい情報は何か？
- ⑮ 健康管理に関する特別な配慮に関連して、あなたが現在最も関心のある配慮の内容は何ですか？